

レオン城址の調査報告

— 1993年(3/14-24) 熊本大学教育学部西洋史研究室調査旅行報告書に代えて —

鶴島博和*

Sur ruines d'une chateau de Lehon à XI siècle rapport de investigations par vingt-deux "boots" sur témoin médiéval

Hirokazu TSURUSHIMA

(Received October 1, 1993)

Le chateau, fortification de Lehon, à 70 mètres environ d'altitude se présente une motte elliptique d'un diamètre à la base d'environ 100 mètres. La famille de Dinan édifie deux forteresses sur le cours de la Rance: l'un (c. 1035) face au monastère de Saint-Magloire, commande le pont et la voie de Rennes, l'autre (avant 1065) en aval, le vieux pont de Dinan et la route de Normandie, sur le site de la future cité de Dinan. Selon la tradition, il y avait une chateau à l'emplacement de Sous-Préfecture et ses jardins, Dinan, et "La tapisserie de Bayeux donne une agréable et magnifique représentation de la motte de Dinan" assiégée par Guillaume de Normandie. S'agit-il de cette motte? Ce n'est pas certain car on ne peut éliminer l'hypothèse d'une confusion entre cette motte et celle, plus impressionnante, de Lehon.(L. Langouët)". Le maxi-motte de Lehon est témoin médiéval.

はじめに：西洋史研究室によるヨーロッパ 巡見旅行への経緯

「風景」は時間と空間における人間の営みの織物である。現在における歴史教育の難しさは、一つには学生諸君と現代的問題関心を共有できないことにある。しかし、ヨーロッパ史を研究する筆者にとっては、「風景」を表わす言葉が正確には伝わらないことも切実な問題である。山、川、海、という「風景」も、熊本とヨーロッパでは随分違う。ヨーロッパにおいてさえ、北と南ではおおよそ違う。そうした違いは、とくに人間の文化的営みの拠点である「都市」や「村落」において顕著である。筆者は、これまで授業において景観のもつ歴史性を重視し、スライド、ビデオ、OHPを用いて模擬観察が可能な状況を作り上げることに努力してきた。

しかし、そこには一定の制約があり、隔靴搔痒の感があった。やはり実際に、「風景」に身をおき、大地を踏みしめて呼吸するに優るものはない。西洋史の演習生だけでも「巡見」を実施できないだろう。この思いは年々強くなっていった。1992年2月に研究室に配属になった諸君と4年生及び院生諸氏と何

回かの話し合いの結果、希望者も多く、翌年の3月に有志によって巡見を行うことが決定した¹⁾。対象は、ヨーロッパ文明の基層＝「旧ヨーロッパ」(O. Brunner)が形成された中世の景観を今に伝える都市に絞った。その上で、ヨーロッパ都市の二類型ともいふべき「地中海型都市と西ヨーロッパ型都市」論(M. Weber)を踏まえて、イタリアに一都市、北フランスに一都市を選び、その差異を感得し、またアルプスを列車で縦断して地中海世界と西ヨーロッパ世界の農村景観を列車から観察することとした。

以上の基本的合意をもとに、筆者は巡見のテーマを、「オルヴィエト(Orvieto)からディナン(Dinan)まで—地中海型都市と西ヨーロッパ型都市の原像を求めて—」としたのである。オルヴィエトは、エトルリアに起源をもつ古都(一説にはその最後の都)で、巨大な岩盤の上にカテドラルを中心に展開する城塞的都市的集落は、あたかも軍艦の様である。ディナンは、11世紀に誕生した「中世都市」である。オルヴィエトと同じく、50mの花崗岩の岩盤の上で今なお城壁に囲まれて中世の香りを留めている。レオン(Lehon)²⁾は、そのディナンの南1.5kmにある小集落である。

ディナンは、「バイユーの綴織」にも描かれ、筆者の授業を聴講した諸君には馴染み深い都市でもあつ

* 社会科教育

た。そこでディナンを中心に、「綴織」所縁の地であるブルターニュと西部ノルマンディを車で回り、ドル (Dol)、モン・サン・ミッシェル修道院、バイユー、タオン (Thaon) といった、都市、修道院、大聖堂、村落を訪問し、さらに、「バイユーの綴織」本体を見学することを第二の目的とした。そして、ドーヴァ海峡を越え、イングランドの最古の石造りの城の一つであるロチェスタ城を見学して帰国するという日程が組まれた (表1)。

調査方法は、トニー卿に倣って (多少表現は違うものの) 「Book から Boots へ」とし、「情報を収集しそしてとにかく歩く」というおよそ「方法」とは名ばかりの乱暴だがきわめて正当なる手段をとった。そして各地の担当責任者を決め、彼女たちに地図の作成、ガイドブックの翻訳と作成、そして巡見経路の決定を任せ、その上で何回かの学習会を開いて互いの認識を深めた。表2は、最初の学習会で筆者が配付した作業表である。こうして準備を整えた我々素人集団は、思いがけない障害を乗り越えて、3月19日午後、レオン (Lehon) の城址に立ったのである。

都市ディナンの成立に関する覚え書き

中世都市の起源についての論争を詳しく勉強する余裕は我々にはなかった。せいぜい「西洋史概説」におけるピレンヌ学説とそれをめぐる諸学説への講義、もしくは演習⁹⁾で得た知見ぐらいのものである。ただ筆者が、学生諸君に夙に強調したことは、「なぜその場所に都市ができ、そこにはできなかったのか」、換言すれば「なぜそこが中心となり、それ以外は周辺となったのか」を地理的、経済的、政治的そして宗教的に考えてみよう、ということである。

宮松浩憲は、「中心地論に拠る研究者は中世都市を政治・軍事、経済、宗教から成る3機能の中心と定義する。そして、これら3機能の実現の場として、通常、城、教会、市場が挙げられるが、パリはこれを『3部作』〈trilogie〉と呼び、北フランスに関して、政治・軍事的要素として城・宮殿、経済的要素としての市場・港、教会組織としての修道院・分院・参事会教会を挙げる」と記している⁹⁾。都市ディナンとレオンの成立を、城、教会、市場から考えてみることにする⁹⁾。

ディナンに領主の存在が確認されるのは、11世紀に入ってからである。城が確認されるのは、レオン

表1 日程

Date	Time From	Time To	By	At Night
3/14 Sun.	10:00 Fukuoka	11:25 Souel	KE733	
	13:10 Souel	21:40 Rome	KE911	Rome
3/15 Mon.				Rome
3/16 Tus.	09:15 Rome Termini	10:17 Orvieto		Orvieto
	<u>An exploration of the medieval city</u>			
3/17 Wed.	07:46 Orvieto	09:20 Firenze S. M. N.	2282	
	11:27 Firenze S. M. N.	14:35 Milano Cent.	IC522	
	15:25 Milano Cent.	21:09 Dijon	EC38/28TGV	Dijon
3/18 Thu.	07:56 Dijon	09:36 Paris Lyon	780TGV	
	11:20 Paris Monp.	13:25 Rennes	8721TGV	
	To rent cars at Rennes and to go to Dinan			Dinan
3/19 Fri.	<u>An exploration of Dinan, Lehon and the site of other bourgs</u>			Dinan
3/20 Sat.	An excursion to Dol, Mt.-St.-Michel and Bayeux			Bayeux
3/21 Sun.	In the morning, a visit to the Bayeux Tapestry			Rennes
3/22 Mon.	08:12 Rennes	10:30 Paris Monp.	8612TGV	
	12:05 Paris Nord	17:33 London Vict.	403	London
3/23 Tus.	In the morning			
	An exploration of Rochester Cathedral, the Castle, and the City			
	19:30 London Hth			
3/24 Wed.		17:35 Souel	KE908	
	18:45 Souel	20:00 Fukuoka		

表2 作業表事例

作業シート No.1	
オルヴィエト (ORVIETO) からディナン (DINAN) まで 地中海型都市と西ヨーロッパ型都市の原像を求めて	
1	準備
(1)	問題の整理：問題の所在
	A ヨーロッパ世界：二つの地域，地中海と西ヨーロッパ
	B 都市の持つ意味：地中海型都市と西ヨーロッパ型都市
	C 景観の歴史現象学的意味
(2)	準備作業
	A 必要な用語を，関係言語（イタリア語，フランス語，英語）で確認
	B 地図の製作と購入
	a 概念図 b 地形図：1/5000 c 市街地図
	C 目的地の確認とマーク
	a 予定路のマーク b 目標の情報
	D 事前調査
	a 地誌，b 歴史，c 人口，d 構造
	E 都市構造を理解するための目標の設定
	a 教会，b 城，c 市庁舎，d 広場，e 城壁，f 大通り，g 港，h 橋
2	記録：メモ帳
(1)	足取りの確認とマーク
(2)	地点
	A 地図上の作業
	a 時間の記入 b 記号の記入（ユニーク化）c 写真の角度とマーキング（カメラ）
	B 距離測定
	a 歩数（万歩計），b 所要時間の体感
	C 印象
	a 建物の構造（材質，形，大きさ，隣接家屋との関係，古さ，特徴，全体での位置），b 道（材質，形，大きさ，隣接家屋との関係，古さ，特徴，全体での位置），c 広場（材質，形，大きさ，隣接家屋との関係，古さ，特徴，全体での位置），d 都市全体，d 近隣との関係
(3)	論理化：印象の文章化と事前調査で得た情報とのすりあわせ
3	作業ノートの作成
(1)	歩いた方位・距離
(2)	街路名・広場名・建物の名前
(3)	時間
(4)	写真の番号，角度
(5)	その場で得た情報
(6)	印象
(7)	註
	A 作業ノートは自分で工夫して，オリジナルなものを作る。
	B とにかく書き込むこと。整理は宿でできる
	C 旅行日誌，日記帳としても使用できる。またメモ帳としても使用できる。
	D 絵葉書を活用すべし。
	E これをもとに，報告書を書くつもりで，まめに記入すること。
	F これが最高のお土産。
4	役割分担について

に1035年頃，現在のディナンに1065年以前といわれる⁶⁾。前者は，ディナンの南に位置する孤丘にあり，後者は現在のディナン市の北東部の郡庁 (sous-préfecture) の敷地にあったという (図1)。両者の共通点は，いずれも修道院が側にあり，かつランス

川の渡河点である橋を見下ろす高台にあるということである。レオンの橋はレンヌへ通じる道の，ディナンの「古橋」(vieux pont) はノルマンディへ通じる道の渡河点であった⁷⁾。

レオンの修道院である Saint-Magloire は，850年

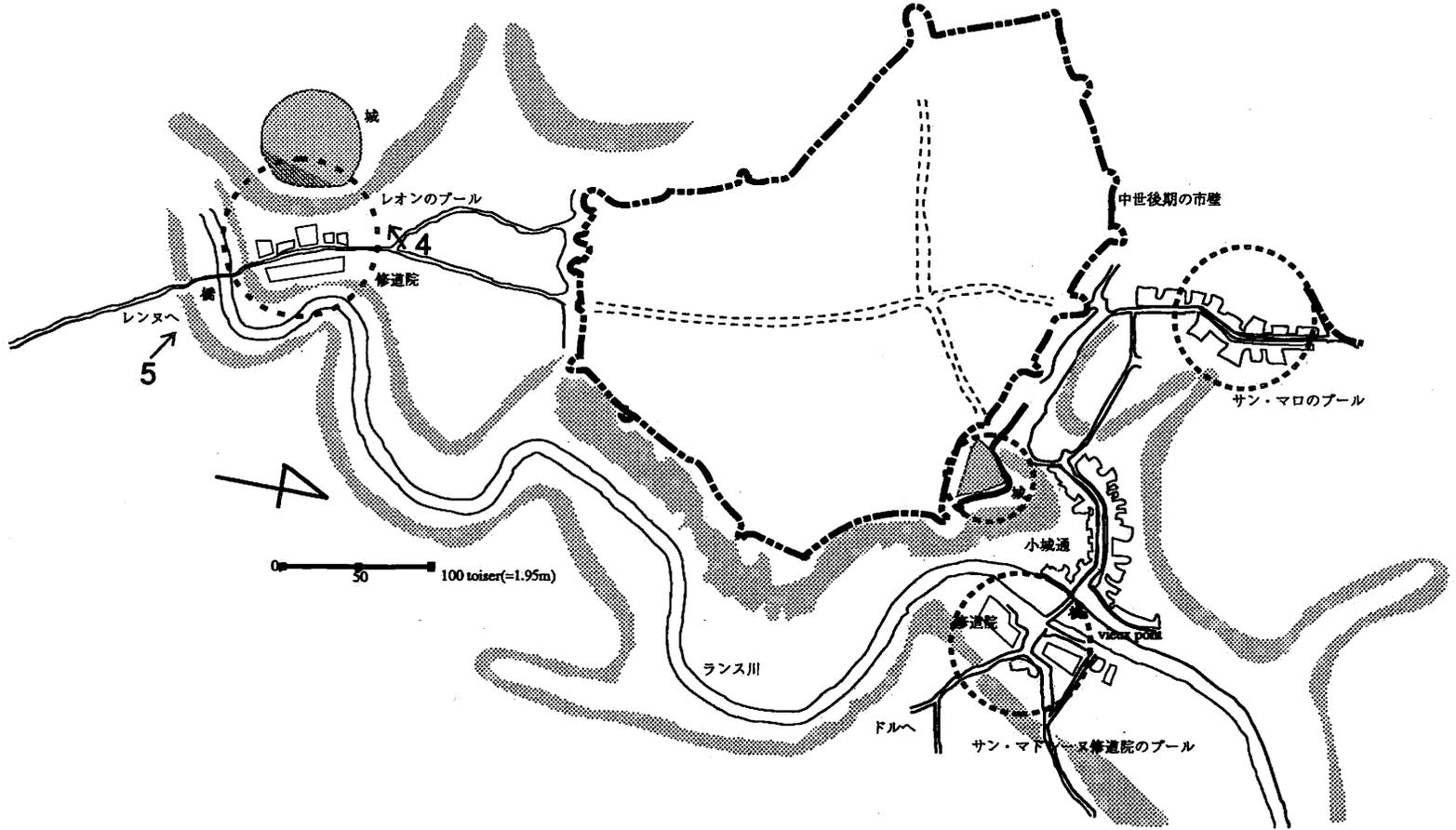


図1 ディナンとレオンの概念図

頃に, Nominoë の援助のもと 6 人の隠修士によって創建された。1008年には, パリの Saint-Magloire 修道院から修道士が導入され, その分院となった。ディナンの領主によって城が建設されたのは, その直後である⁹⁾。また推測ではあるが橋とその周辺は, ディナンの「古橋」と同じように, ランス川を航行する船舶の碇泊地として利用され, 陸路からの商品と水路からの商品の積み替えが行われ, 市が開催されたのではないだろうか。11世紀前半までにはレオンに, 城と修道院を核としたプールが生まれたと思われる⁹⁾。ついで, 北の高台であるディナンに城が建設された¹⁰⁾。ランス川を見下ろす高台は, 高低差が50から60m あり, 街道の渡河点を見下ろす位置は, 防衛の拠点である。当時, 現在のディナン市の場所に, どれくらいの人口集中が行われていたかは定かではないが, 1065年以前に北側の St. Malo のプールのいわば核となる St. Malo の教会が建設されていることなどからも¹¹⁾, 既に存在していた城を中心に丘の

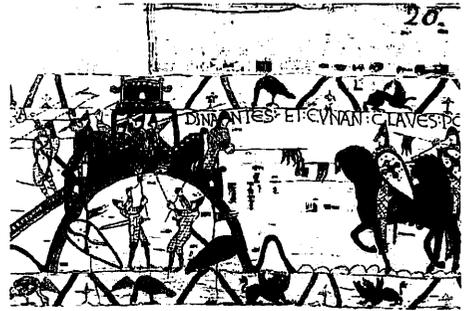


図2 「バイユーの綴織」に描かれた所謂「ディナンの城」
攻撃するノルマン騎士が火攻めを敢行しているところから, 城は木造であることがわかる。(La Goëlette のスライドより)

上と川沿いに集落が形成されていたと推測しうる。言葉の本来的な意味でのプールが生まれたのである。「バイユーの綴織」には, ウイリアム軍とディナン

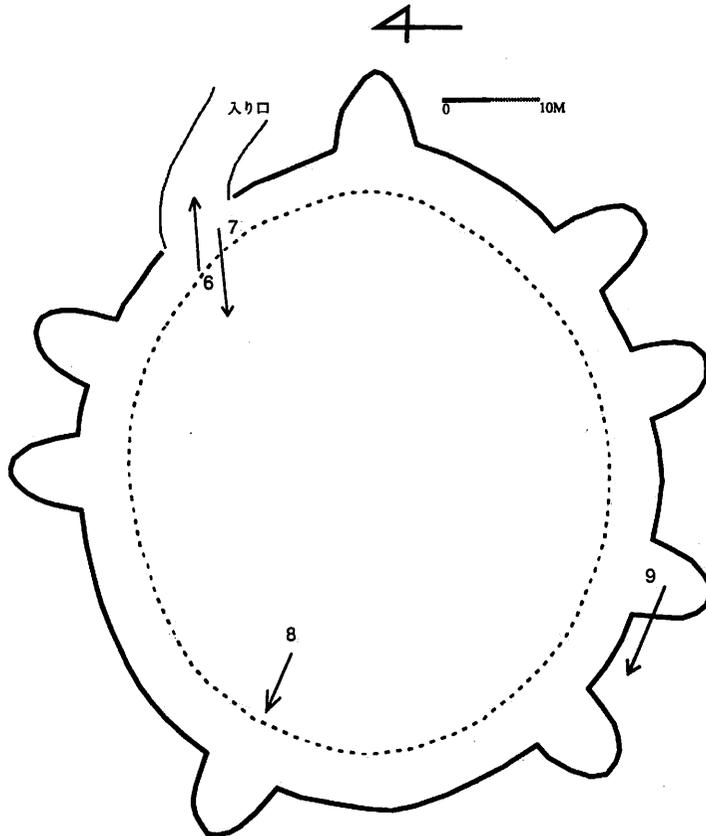


図3 レオン城址

守備隊の激しい攻防戦が描かれている(図2)¹²⁾。この時点では、レオンとディナンは二つの拮抗するブルであった。この関係に決定的な役割を果たしたのが新しいブルの建設であった。

1070年、ディナン領主 Olivier の子 Geoffrey de Dinan は、Saint-Florent de Saumur 修道院の分院である Le-Magdelaine-du-Pont 修道院を建立した。その際、ランス川の右岸の橋のそばの土地を寄進し、同時に修道士たちが「修道院の近くにブルを建設する権利と、このブルもしくは城塞(*castrum*)に碇泊した商品を運んだ船から12ドユニエを徴収すること」を認めたのである。「港」と「橋」は、ディナンを海上―水上交通と陸上交通の結節点とし、レオンに対する優位を決定的なものとした¹³⁾。Le-Magdelaine-du-Pont 修道院ブルの建設によって、ディナンの中心化とレオンの周辺化の方向が定まったのではないだろうか。

レオン城址の調査

3月19日、我々は、宿舎にしていた St. Malo 地区を出発、ディナンの城址(とはいっても現在は郡庁の建物と庭しか残っていないが)から古橋を渡り Le-Magdelaine-du-Pont 修道院とブル跡地、そしてディナンの城壁に沿って Porte du Guychet (現在城壁はこのあたりまでしか残存していない)まで歩き、それからレオンへ向かった。

「バイユーの綴織」に描かれた城は、普通はディナンの城と考えられている。しかし、Loïc Langouët は、二つの城のイメージを象徴的に表わしている可能性を示唆している¹⁴⁾。城址は、基底部の直径が約100mにもなる東西に長い楕円形状の大きな孤丘の上にあった。図4は、図1の4のアングルから撮影したものである。現在は、12世紀以降に建造された石造りの塔の残骸が残るのみであるが、「綴織」に描

かれた11世紀中ごろは、木造ではあったが、威風堂々とした柵と塔が丘の上から睨みを利かせていたであろう。丘の水面からの高さは約70m、ディナンの台地よりも10~20mほど高い。

丘の上は、8つの塔の残骸以外は、雑草と灌木が覆い、往時を偲ばせるものはない。入り口は、川と橋と修道院、そして集落が展開するに東側に開いている。図5は、図1の5のアングルで撮影したものである。橋の右手が修道院である。

我々は、城址の計測を行った。すべて歩測による。何名か組んで歩数の平均値とその組の歩幅の平



図5



図6



図4



図7



図8



図9

均値を出し、それらの積によって距離を割り出した。その結果が図3である。実線部分が外周、点線が内周で、その間は内から外に向かって坂になり、そこにかつて城壁が築かれていたものであろう。図6、7、8、9の写真の角度は、それぞれ図3の6、7、8、9の角度で撮影したものである¹⁵⁾。

さいごに

学生諸君が、この巡見によって、都市ディナンの成立や往時のレオンの城をどのようにイメージしたのかは興味あるところである。帰国後、学生の一人が、Tamworthの城が似ているとつぶやいていた¹⁶⁾。もちろん石造りの重厚なレオン城を想像したのであろうが、

翌日、我々はディナンを発ってドル(Dol)へ向かった。ドルの聖堂は、強くもあり、それ故に滅び去る悲しみがあつた。

註

- 1) 参加者は、他に規川宏輔(熊本大学教育学部)、田村理恵、井上佳子(以上熊本大学教育学部大学院院生)、荒牧善昭、苑田亜矢、谷英一郎、上井紀子、江口智美、藤本太美子、森貴子(以上熊本大学教育学部学生)の計11名。
- 2) Lehonと表記して、ルオンではなくレオンと発音される様である。
- 3) J. L. Abu-Lughod, *Before European Hegemony: the World System A. D. 1250-1350* (New York and Oxford, 1989).
- 4) 宮松浩憲『西欧ブルジュワジーの源流』(九州大学出版会, 1993), p. 6.
- 5) 詳しくは、拙稿「『バイユーの綴織』と三つの<城> — ポーレン(Beaurain)城, ドル(Dol)城, ディナン(Dinan)城の「景観調査」報告に代えて —」(下)『史学』掲載予定を参照。
- 6) Anne Subert, 'L'abbey de Lehon', Loïc-René Vilbert ed., *Dinan au Moyen Age* (Dinan, 1986), p. 317.
- 7) 1070年代に Saint-Magdelaine-de-Dinan の修道士に発給された建立特許状には、「(ディナン) 橋の端に牧場をつくるように」とか「レオンの橋までの漁場」とある。Subert, op. cit., p. 317. M.-E. Monier, *Dinan Mille Ans D' Histoire* (Mayenne, 1977), p. 21. フリーマンは、ローマ時代からの橋という。Edward A. Freeman, *The History of the Norman Conquest of England*, iii, (Oxford, 2nd edn, 1875), p. 240.
- 8) Subert, op. cit., pp. 313-17.
- 9) 宮松前掲書は、11世紀におけるレオンのブル化を確認していない。しかし、城と修道院の存在は、その事実を示めてはいないだろうか。
- 10) Dinanとは、ケルト語の防衛にむいた高台を意味するという。A. Chédeville, 'Dinan au temps des seigneurs des origines à 1283', in *Dinan au Moyen Age*, p. 17.
- 11) J. Métayer, 'Dynasties des seigneurs de Dinan', in *Dinan au Moyen Age*, p. 216.
- 12) 詳しくは、前掲拙稿を参照。図は、市販(La Goëlette)のスライドを複写した。
- 13) Chédeville, 'Dinan au temps des seigneurs des origines à 1283', pp. 20-22.
- 14) Loïc Langouët 'Approche archéologique des mottes castrales', in *Dinan au Moyen Age*, p. 65.
- 15) 数値の集約と下図の作成は、井上佳子が担当したが、編集の責任は筆者にある。また写真はすべて、筆者の撮影による。
- 16) R. A. Brown, *Castles from the Air* (Cambridge, 1989), p. 211.

【後記】

宮松浩憲氏からは、本稿作成の際にいろいろご教示をいただいた。氏に記して謝意を表したい。